

岡山県内研修医

内定者最多の流れ定着を

高齢化で医療の需要が増す中、多くの若い医師が診療の第一歩を踏み出す地に岡山県内を選んだことは歓迎できる。この流れを定着させ、医師が着実に確保できるように地域を挙げ取り組みたい。

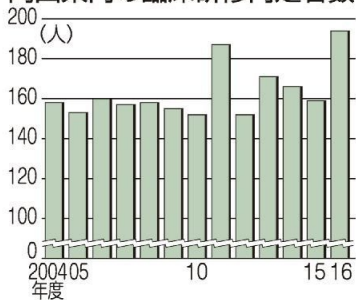
新人医師が医療現場で指導を受ける臨床研修で、県内の病院で2016年度からの研修が内定した人が194人と本年度より35人増え、研修が義務化された04年度以降で最多となった「グラフ」。募集定員に対する内定者の割合も79・5%と過去4番目に高い。厚生労働省が発表した。

広島県内も30人増の178人と定員の81・7%に達し、

全国平均(78・6%)を上回った。香川県は11人減の61人で59・2%にとどまった。

現行の研修は大学を卒業し国家試験に合格した医師が2年間、大学病院や国指定の病院で内科、救急などを回り幅広い診療能力を習得する。導入後、研修医が都市部に集中

岡山県内の臨床研修内定者数



し、地方の医師不足が顕在化したため、厚生省も都道府県別の定員に上限を設けるなど適正配置を促している。

岡山県内は今回募集した16病院のうち14病院で内定者が

社説

あった。病院別の人数は川崎医科大付属41人、岡山山37人、倉敷中央31人などである。

増加の要因には学生へのPRを若手医師に依頼するなど病院ごとの工夫や、研修病院

で改築が相次ぎ最新の設備で研修できる期待感があるという。病院の枠を超えた募集活動も行われた。今夏に大阪で

あったPRイベントでは県が主導して県内5病院合同のブースを初めて設けた。バラバラで勧誘するより学生へのアピール度が高まったようだ。

県や医療機関が連携し近年、取り組んできた医師確保策も実を結んできた。中でも10年に県の寄付で岡山大にできた地域医療人材育成講座の効果が大いだろう。県内の医療機関での体験実習を積極的に、学生は卒業後も県内での医療貢献に前向きになっているという。

岡山県は人口10万人当たりの医師数(12年12月末)が277・1人と全国平均の226・5人を大きく上回る。とはいえ、医療圏別では高梁・新見が130・2人ととどまるなど地域による偏在が深刻で、医師確保は大きな課題だ。

これまで行ってきた対策の効果を検証し、さらに充実を図りたい。臨床研修後に県内へ残ってもらうことも大切だ。研修では地域医療が必修となっており、地域へ出かける機会を通じて、やりがいを感じたい。近年増えている女性医師が子育てしながら働きやすい環境整備も求められる。

2015.11.20

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。